

家庭科における平成20年度授業改善推進プランの検証

<p>取り組みにおける成果と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の関心意欲は高い。導入時には、「家族が毎日やっている調理や洗濯の実際場面を見たり聞いたりして記録する活動」を取り入れた。これにより、家庭における会話も増え、課題解決のための集中的な活動へのつながりが作られ、理解の深まりも見られるようになった。 ・「生活をよりよくする」という意識はまだ十分ではなく、実生活の中で継続的な実践を通して、創意工夫する力を身につけてよりよい生活を営もうとすることが課題である。そのためにも、日々の暮らし方を見つめ、具体的に見直すことができるようにすることを出発点としたい。数理に基づく視点と人から学ぶ視点をもった授業者からの提示をしていきたい。
--

家庭科における調査結果の分析

家庭生活・近隣の人々 内容 (1) (8)		衣服・生活に役立つもの 内容 (2) (3)	食事・食品 内容 (4) (5)	住まい方・金銭 内容 (6) (7)
内容別結果の分析	分の生活をり、時をにうことのを学だ。毎日の生活においてできるところまでは生かしきれていない。課題で家庭のかな力、ましが児童のえとなつているもい。	衣服の入れやにに関する実課題には、をもつて取り組だ。めでのではとつの作業がを作り出るをうことができたが、基的なを理解しするにはらない児童がい。	関心が高く、実、を進でった。日、たりとしてきたことがしい識として理解できたときには、的な活動が見られた。事に家庭生活に活かすがみられた。	身近な題ではあるが、まだ分のこととして生活とのかかりでえたり、改善していく視点をもったりすることは、ややである。
	関心・意欲・度	創意工夫	生活の	識・理解
観点別結果の分析	体的に関心をって取り組んでいる。実への関心はい。実生活への的な取り組みは活動の継続ができていない。分の生活の中で実・継続する度の成が十分であった。	分自身が生活者であることを、家庭科学を通して、をしはめたといえる。だの活動の進め方や作品から学い、工夫につなっていた。	家庭生活でのはない。授業がのとなる児童もいので基をていいに導するがある。家族のとしてのをもたるよりなきかけもにしたい。	識や事実をしくする面をて理解もかなりできるようになった。のやをらたり、み取ったりする活動をく取り入れるがある。

調査結果に基づいた授業改善の

、からだ、 を って、「つくる」 し ・「できる」 を り、「家族に てもらえる」うれし を十分に 取れるようにする。 や発 の活動を通して 分ができたことを するとともに、 との学 いを生かし、できることを る。

果的に実践に役立てることをめあてにして ・ を き ことができるように 、作業の際にそれを する 度を身に け る。

学 、家庭との を深め、継続的な活動の場作りをする。(学 だことを家庭でもやってみる ン の な)